

要素訓練結果報告の概要

1. 訓練の目的

本要素訓練は、交流電源喪失時の各対応手順書に従った操作訓練を繰り返し行うことにより、訓練対象者の習熟度向上を図り、交流電源喪失時の対応能力の向上に資することを目的としている。

2. 実施日および対象施設

(1) 実施日

2013年4月3日 ～ 8月8日

詳細は、「添付資料」のとおり。

(2) 対象施設

日本原燃 再処理工場

3. 実施体制、評価体制および参加人数

(1) 実施体制

訓練ごとに実施責任者を設け、実施担当者が訓練を行う。

詳細は、「添付資料」のとおり。

(2) 評価体制

定められた手順書どおりに訓練が実施されたかを実施責任者が評価する。

(3) 参加人数

「添付資料」のとおり。

4. 原子力災害想定概要

再処理工場の全交流電源が喪失することにより、崩壊熱除去機能等が喪失する状況を想定する。

5. 防災訓練の項目

要素訓練

6. 防災訓練の内容

その他訓練

7. 要素訓練の結果の概要（添付資料参照）

（1）その他訓練

①電源車対応訓練

- ・地震等により交流電源機能が喪失したことを想定し、電源車から電源を供給するためのケーブル敷設および接続するための実働訓練を実施。

②水素掃気用コンプレッサ対応訓練

- ・地震等により交流電源機能が喪失したことを想定し、エンジン付エアコンプレッサから水素掃気用の空気を供給するためにホースを敷設するための実働訓練を実施。

③通信設備用発電機対応訓練

- ・地震等により交流電源機能が喪失したことを想定し、通信設備用非常用発電機から電源を供給するためにケーブルを敷設および接続するための実働訓練を実施。

④冷却コイルへの直接注水

- ・分離建屋の高レベル廃液濃縮設備の加熱・冷却コイルに冷却水を供給するために消防ホースを建屋内に敷設するための実働訓練を実施。
- ・精製建屋の安全冷却水AまたはBおよびC系に冷却水を供給するために消防ホースを建屋内に敷設するための実働訓練を実施。
- ・ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋の安全冷却水系AまたはB系に冷却水を供給するために建屋内に消防ホースを敷設するための実働訓練を実施。
- ・高レベル廃液ガラス固化建屋の冷却コイルに冷却水を供給するためにあたって安全冷却水内部ループ配管に消防ホースを接続する治具が必要となるが、この治具設置作業についてのモックアップ訓練を実施。

8. 訓練評価

各要素訓練について定められた手順どおりに訓練が実施されていることを確認できた。訓練ごとの評価結果は添付資料のとおり。

以 上

<添付資料>

要素訓練の概要

要素訓練の概要

○ 交流電源供給機能等喪失対応訓練（訓練実施日：4月3日～8月8日（適宜反復訓練を実施（当該期間内で計56回実施））、参加人数：1010名）

訓練項目	実施体制 (①実施責任者、②実施担当者)	実施結果	今後に向けた改善点
電源車対応訓練（※） 交流電源機能が喪失したことを想定し、電源車の出動、起動および電源車から電源を供給するためのケーブル敷設の訓練（実働）を実施	① 統括当直長または当直長他 ② 当直員	手順書に従って、現場配置、電源車の出動、起動、ケーブル敷設、接続作業等が迅速に対応できること、目標時間内に円滑に対応できることを確認した。	繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく等。
水素掃気用コンプレッサ対応訓練（※） 交流電源機能が喪失したことを想定し、エンジン付空気コンプレッサの起動およびホース敷設の訓練（実働）を実施	① 統括当直長または当直長他 ② 当直員	手順書に従って、現場配置、コンプレッサのホースの敷設、起動/停止、接続作業等が迅速に対応できること、目標時間内に円滑に対応できることを確認した。	繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく等。
通信設備用発電機対応訓練（※） 交流電源機能が喪失したことを想定し、通信設備用発電機の起動および電源を供給するためのケーブル敷設の訓練（実働）を実施	① 統括当直長または当直長他 ② 当直員	手順書に従って、現場配置、発電機の起動/停止、ケーブル敷設、接続作業等が迅速に対応できること、目標時間内に円滑に対応できることを確認した。	繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく等。
冷却コイルへの直接注水訓練 分離建屋の高レベル廃液濃縮設備の加熱・冷却コイルに冷却水を供給するための消防ホースを建屋内に敷設するための実働訓練を実施	① 分離課長 ② 分離課員 7名	放射線防護装備を装着した実働訓練でも目標時間内に円滑に作業を実施することができた。	繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。
冷却コイルへの直接注水訓練 精製建屋の安全冷却水AまたはBおよびC系に冷却水を供給するための消防ホースを建屋内に敷設するための実働訓練を実施	① 精製課長 ② 精製課員 6名	手順書の実用性確認および役割分担の明確化、課題の抽出ができた。	マニュアルのわかりにくい部分の改善等。
冷却コイルへの直接注水訓練 ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋の安全冷却水系に冷却水を供給するための消防ホースを建屋内に敷設するための実働訓練を実施	① 脱硝課長 ② 脱硝課員 5名	放射線防護装備を装着した実働訓練でも目標時間内に円滑に作業を実施することができた。	繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく等。
冷却コイルへの直接注入訓練 高レベル廃液ガラス固化建屋の冷却コイルに冷却水を供給にあたって安全冷却水内部ループ配管に消防ホースを接続する治具が必要となるが、この治具設置作業についてのモックアップ訓練を実施	① ガラス固化課長 ② ガラス固化課員 15名 当直員 12名	手順書に基づき、AM対策で要求されている目標時間内に円滑に対応することができた。	繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく等。

（※）：複数の要素訓練を同時に実施することもある。